

西高瀬川運河の開通

京都市内の中心部にある木屋町通沿いの高瀬川は、高瀬舟と呼ばれる平底の船により淀川筋の伏見から物資が運ばれた川としてよく知られています。この川は江戸時代の初めに角倉了以により開かれた運河で、明治年間の終わりごろまで使われていました。

一方、京都市内には市域の西側にも西高瀬川と呼ばれる運河が作られていました。こちらの方はあまり知られていないかも知れません。幕末、京都が再び政治の中心になって人口が増加すると、京都への物資の搬入のために高瀬川とは別の運河作りが計画されました。それが西高瀬川です。

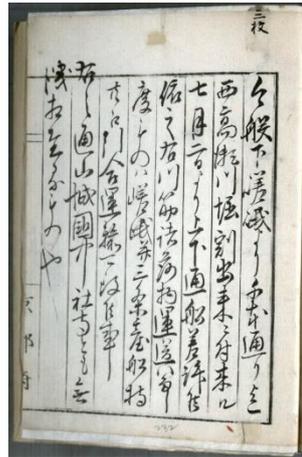
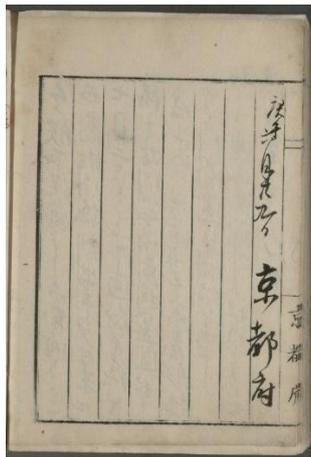
工事は文久3年（1863）頃から始まり、当初は下嵯峨から四条通沿いに千本まで至る計画だったようです。しかし、維新により工事は中断し、再開後は三条通沿いに河道が変更され、明治3年（1870）年に完成しました。

京の記憶アーカイブの行政文書簿冊目録で「西高瀬川」をキーワードに検索すると全体で27件がヒットします。明治3年の2件のほかは、昭和28年（1953）以降のもので、同じく行政文書件名目録で検索すると、全体で1131件がヒットします。年次別に見ると、明治元年は0件、明治2年は3件、明治3年は14件、明治4年～同6年は各1件、明治7年は6件という具合です。簿冊名・件名ともに明治3年の文書が鍵になることが分かります。

簿冊では、「西高瀬川筋一件往復」（明 03-0057）、「西高瀬川堀割御普請」（明 03-0058）があり、各区間の土地

の支払いの記録などが含まれています。件名で見ると、「布令書」 ([明 03-0005](#))、「達留」 (明 03-0010-001) に西高瀬川完成の記事があります (写真)。それによると明治3年7月2日に下嵯峨から千本通までの上下通船を差許し、荷物運送したいものは嵯峨村か三条台村 (現中京区西ノ京附近) に問い合わせるように指示しています。

「京の記憶アーカイブ」を、資料検索に、画像閲覧に大いにご利用ください (行政文書の場合、画像を公開中のものはまだまだ少ないですが)。



京都府庁文書

「布令書」

(明 03-0005)

(2016年4月29日公開)